



# よこはま プロバス通信

No14 2014年9月発行

<http://yokohama1probus.web.fc2.com/TR3.html>

ユーチューブチャンネル [purobusyokohama](http://purobusyokohama)

情報委員会・編集委員

情報委員会所在地 : 横須賀市湘南鷹取

1丁目32番14号 電話045-865-13

29 2014年(平成26年)9月12日発行

## 7月から新執行体制で

新たな役員構成も決まりました。この一年間よろしく。前役員の方々は、11月の全日本プロバス協議会総会・横浜大会の準備にもうひと踏ん張りおねがいます。

### 新役員

会長	中村 實	副会長	小磯智功
幹事	關 尚記	副幹事	岩田慎一
例会委員長	富永和男	副委員長	宮川清彦
会員委員長	加藤道子	副委員長	岡部正久
情報委員長	樋口健太郎	副委員長	須藤照夫
会計、事務局	小磯智功		
会計監査	<del>加藤 豊</del> 大久保 武	会計監査	高橋幸司
常任理事	森山 功		

## 7月例会から

(26名参加)

1、 中村新会長が就任あいさつで、11月の全国大会に向け総力を結集すると表明。

### (会長就任あいさつ)

今季第15代の横浜プロバスの会長を務めることになりました。まだまだ力不足でありますので皆さんのお力添えをお願いします。私として、前会長の青木氏がエネルギーで精力的に取り組んでこられた後を引き受けるのはと、懸念していますが、青木氏の持ち前の親切心で、至らぬ後輩を助けて頂けることと存じます。



特に今年は、実行委員長を青木氏、幹事長を森山氏として全日本プロバス協議会全国大会(総会)が11月23日に予定されています。全国から参加する会員の方に、「さすが横濱だ」ということを示すため11月に向けて総力を結集してまいりたいと思います。実行委員長、幹事長を中心に是非とも皆さんのお力添えをお願いしたいと存じます。会長としてのこれからの考え方については、次の機会に述べさせて頂くことにしまして就任の挨拶といたします。

2、横浜山手ロータリークラブから来賓として会長の近藤眞江氏と大場英男氏が来所され、会長から祝辞並び



### (横浜山手ロータリークラブ近藤会長 祝辞)

横濱プロバスの新年度を祝してご挨拶いたします。13年前の設立時に会則の基を作った大場会員とまいりました。当時の初代川村会長を懐かしく思います。あまりの発展ぶり、活躍ぶり、皆様の活気に圧倒されております。ホームページには、楽しい行事や神奈川県内ばかりでなく日本中と交流を深めていることが配信されており、感服いたしましたこれからのご活躍、発展を楽しみにするとともに、当ロータリークラブにもおいでいただき、この勢いを私どものクラブに引き込んでいただければと思っておりますので、よろしくお祈りいたします。新年度のスタートおめでとうございます。

毎年補助ということで預かってまいりましたので、中村会長よろしくお受けください。



## 7 月 例 会 から

### 3、宮川会員のビジター紹介

宮川氏の中学時代の同窓生で、現在、政治評論家として活躍している浅川博忠氏が自己紹介の中で、電力の鬼と言われた生涯現役を貫いた、松永安左衛門氏とのかかわりについて、興味深い話を披露された。

#### 浅川博忠氏の自己紹介

政治ジャーナリストになるきっかけの一つとして、学生時代に電力の鬼と言われた松永安左衛門



氏の身近でかわいがられたことがある。私が松永門下生の最後の世代になるのではないかと。松永氏は、昭和46年に95歳で亡くなる最後の最後まで現役を貫いた。生涯現役の人生を歩んできた。戦前は電力王、戦後は再編劇を契機に電力の鬼というニックネームをつけられた。私は10代から20代にかけて、松永氏の85歳から亡くなる95歳までの晩年の11年間、身近に接してきた。鬼と言われるにふさわしい怖い存在の人だったが、青年時代の私にいろいろ教えてくれた。そのうちの一つは、自分の一生は一回しかないのだから、20代の時は20代の自分白書、30代は30代の自分白書・・・以下50代、70代・・・それぞれ世代に応じて自分白書を作って計画性のある人生をおくれ。もう一点印象に残っているのは、人間は哺乳類、動物だ、動物は字の如く動くものなのだ。要するに死ぬまで動けよ、動いている以上途中で結論を出すな、自分が本当に死ぬ時が結論なんだから、それまでは絶えず動く動物であれ。だからたやすく中途半端な結論を導き出すべきでない。こういうことも厳しい口調で何度も教えられた。松永氏が亡くなって43年になるが、私にとって、つい数日前のように鮮明に覚えている。更にもう一点加えると、昭和38年7月に松永氏と時の池田総理との会食の場に

同席させて頂いた時の貴重な体験も絡んで、私は政治ジャーナリストの仕事をするようになった。

### 中村会長のビジター紹介

柴田順子氏は会長のNHK文化センター講座（湘南散歩）の教え子であり全日本太極拳の初段を有する。本来の仕事は服飾デザイナーとして活躍。柴田氏の話では、今は、太極拳を中心としているが、始めた動機は体調を崩したことから、体は大事なのでやっていると述べられた。

### 4、新入会員紹介並びにプロバスバッジ授与

(中村会長から)

平山秀樹氏  
平岡秀夫氏(欠席)  
(2名の新加入により  
会員数39名になる。)



平山氏

### 5、誕生月お祝い品贈呈

(加藤会員委員長から)

7月誕生 佐藤 博(欠席) 關 尚記  
束野 操  
8月誕生 原田 正成(欠席) 高橋 幸司

### 6、会務報告

理事会の協議事項等 (関幹事)

1、平山秀樹氏の入会承認 2、特別会員として大類氏の入会承認 3、会則変更を検討する委員会を設置 4、全日本協議会総会・横浜大会の組織体制を7月中に決定 5、未定となっていた副会長に、事務局小磯氏の推薦を決定 6、クラブソング作成のため委員会を設置し検討

7、同好会活動報告

参遊会会長

7同好会あるが、統合整理する必要があると考えているので、相談したい。

また、クラブソングについては、カラオケ同好会でも検討している。

**あるこう会**・・・五所川原の交流会参加者が20名になった。五所川原の行動は企画担当、会計担当で願います。

今からでも申込できます。

**カラオケ同好会**・・・毎回参加者が多く、あまり多いと歌の順番が回ってこないの  
で痛し痒し。会でもクラブソングの歌詞（替え歌）も検討している。

**パソコン同好会**・・・7月16日県民センターで実施

**釣り同好会**・・・7月31日磯子海釣り施設で実施

8、会員放談 (富永 和男氏)

年代的に否応なく、自分の問題として避けることのできない病気。富永氏が死線をさまよったことや臓器移植のエピソードなどを率直に語りました。



「私の人生4度の入院エピソード」

年 齢 等	病 名 等	入院期間
小学4年生 (10歳)	盲 腸	1か月 1953年
5年生 (11歳)	足 骨 折	3か月 1954年
62歳	副腎摘出手術	14日 2005年
63歳	心臓ペースメーカー埋め込み手術	14日 2006年

小学校4年生の時、近所の医者に盲腸を誤診され、冷えて腹が痛いだろうということで、塩をのせて温めろと指示された。母親が言う通りにしたところ盲腸が破裂して七転八倒の苦しみ、当時は救急車もなく親戚のリヤカーで30分かけて入院し事なきを得た。化膿していたため1か月の入院になったが、すこし遅れれば助からなかったと言われた。

次に、5年生の時、転校先でみんなと馬乗りをしていて足を骨折し、足利の日赤病院に入院した。ちょうどその頃、学校事故に保険が導入されることとなり、病院の医療費が無償となる制度の適用第一号として、入院中にNHKの取材を母とともに受けた。その時、母は、治療費を払わずに済み本当に助かったと話したそうです。その後しばらく社会にでて病気一つしたこともなかった。

私の長女が10年間腎臓透析を受け、2日に1回通って大変だったので、私も60歳過ぎたので、家族に多少の反対があったが、腎臓を提供して移植させることにした。そこで私が市大病院の方で移植の検査をすることになった。検査をしている最中に、前から患っていた心臓の悪い原因が副腎にあることが判ったので、副腎摘出手術をうけた。結果的には、娘に助けてもらった形になった。翌年娘は移植ができて、今は透析しないで済んでいる。

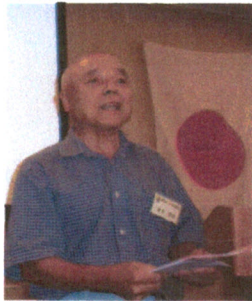
腎臓を摘出して娘に移植しようという私の心掛けが、私を生かしたのではと思っている。その後、4回目の入院になるが、日曜日の昼頃、心臓がパタッと止まってしまった。直ちに救急車で運ばれ、ペースメーカーの埋め込み手術をして、心臓が動いて目が覚めるまで30分だった。私は医療費が無料なので、健康な皆さん方のお蔭で生かされていると考えており、この場をお借りして感謝したい。第二の人生を仲間の皆さんと一緒に多少なりとも社会に貢献していきたい。



## 9、全日本プロバス協議会について

11月の大会成功に向けた全国行脚の報告、準備への協力依頼及び大会スローガンの披露があった。

### 11月総会実行委員長 青木伊平氏



11月の全国大会はクラブメンバーの全員参加でいきたい。参加者には、横浜は凄いとされるような最高のおもてなしをして、記憶に残る大会にしたい。私は今、森山幹事長

と一緒に全国を行脚している。7月14日から2泊3日で北海道の旭川と札幌へ行く。

この間(5月14日～15日)は、九州(鹿児島、博多、小倉)地区の会長と幹事長50人から60人に集まってもらい、大会に向けて縷々説明し、賛助会費についても協力いただけることがまとまった。金沢(6月11日～12)にも行ったが大歓迎を受けた。今後も、青森、新潟等全国を回る。賛助金100万円は集めたい。全国大会は全員参加で願う。

大会スローガンとして、一つは、東京オリンピックにあわせプロバスの世界大会を日本で開催。次に、楽しくなければプロバスでない。楽しいばかりがプロバスでない。この二大スローガンを県民ホールに掲げたい。

### (森山全日本プロバス幹事長から)



青木前会長と加藤儀一氏から、空席になっている全日プロ会長に横濱プロバスの中村会長をとの提案があり、本日の例会で賛同が得

られれば正式に候補者として推薦したい。

(満場一致の拍手で了承)

## 6月例会(151回) 定時総会(第15回)

(30名出席)

平成26年6月13日(金)午後2時から、進交会館において6月例会と第15回定時総会が開催されました。

まず、会長挨拶で始まり、その中で、全日本プロバス協議会の総会実行委員長も兼ねる青木会長と協議会森山幹事長が6月中旬訪問した、北陸(石川県・松任)プロバスクラブでの活発な交流報告と、各メンバーに対して本年11月開催の総会への協力要請があった。

次に、宮川会員紹介のゲストとして、印南義勝氏、平山秀樹氏の一口スピーチと平山氏の美声が披露された。また、来賓の横浜ロータリークラブ会長 平賀 泉氏からご挨拶をいただいた。

誕生月のお祝い品は、岩城孝子及び保谷英雄両会員に贈呈された。各委員会報告に続いて理事会報告として、5月9日の第8回神奈川プロバス親睦交流会(鎌倉当番)、16日の多摩プロバス10周年記念式典への参加が報告された。次に、理事会報告では、①平岡秀夫氏の入会承認、②特別会員制度の創設、会長経験者のパスト会長及びチャーターメンバーの付与名称の新設(会則変更のため委員会の設置)

引き続き、午後3時からの総会では、年間活動報告、決算報告、監査報告の後、26年度活動方針、年間活動報告、収支予算案が承認され、次の通り新理事(敬称略)が選出された。

(会長) 中村 實

(幹事) 關 尚記

(例会委員長) 富永 和男

(会員委員長) 加藤 道子

(情報委員長) 樋口 健太郎

なお、副会長は新会長が7月例会で指名する。

総会終了後、懇親会が行われた。

8月の例会は休みます。

## 理事会開催

7月18日(金)(会場・進交会館14名出席)

- 1、倶楽部ソングの件については、新たに委員会を作って検討。
- 2、規約改正について、幹事から、横濱プロバス倶楽部会則が配布され、次回の理事会に規約改正の意見を。
- 3、社会奉仕(貢献)については、社会奉仕委員会をつくり検討。
- 4、創立15周年の件(2案有り)
  - ①来年1月30日が応当日なので、来年の前半までに15周年事業を。
  - ②11月の全国大会に合わせて、前倒しで実施を。

## 5、要望(同好会の合併等の件)

同好会世話役と検討して次回の理事会に報告する。(参遊会会長)

- 6、11月の総会・横浜大会の件  
実行委員会の組織体制、実行委員の役割、作業、工程について検討。
- 7、五所川原プロバス交流会の件  
参加者が20人(会員の半数を超える人数)と多く、移動例会の取り扱いにする。

## 理事会開催

8月22日(金)(会場・進行会館10名出席)

- 1、9月にプロバス通信発行。本来の発行月の10月には11月総会の特集号をだす。
- 2、五所川原移動例会の残金は、今後必要なDVD等記録費用に充てる。最終残金は当会計繰入れ。
- 3、規約改正について理事意見提出させ、検討。  
規約改正、倶楽部ソング作成及び社会奉仕委員会の各プロジェクトメンバーは、1940年以降出生者の中から任命。
- 4、9月会員放談について、宮川会員から講師招への提案があった。講師の都合もあるので例会の予定をフレキシブルにし、交通費も考える。

- 5、全日本プロバス倶楽部総会の賛助会費1口5,000円を2口以上協力の呼びかけを当倶楽部会員に行う。
- 6、新設予定のグリーンプロバスクラブを支援するため、関口会員を受付窓口とする。
- 7、9月2~3日仙台ロータリーのメンバーに会って、プロバスクラブを新設するよう説いてくる。仙台には、中村会長、全日本プロバスの森山幹事長及び松下理事が出向く。

## 第二回釣り同好会開催 大漁?

釣り同好会の第二回の行事が、7月31日午前11時から4時間半に亘って磯子海釣り施設で開かれました。9人のメンバーとゲスト1人(東野さんの4歳のお孫さん)が、炎天下、日焼けをものともせず休憩もとらずに頑張りました。松下、須藤さんから手ほどきしてもらい、全くの初心者4人も釣りを楽しみ、釣りの魅力を実感しました。小さなフグやヒイラギといった、食卓に載らないような子魚がよくかかりましたが、午後あたりから、小ぶりのアジ、サバ等が掛るようになり、岩田さんが数多くあげました。一番の大物は、松下さんの大きなワタリガニでした。もっと続けたいとの声もありましたが、予定通りの時間に納竿しました。

反省会は磯子駅に戻り、午後4時から、そば処で新たに宮川さんも合流して男9人のメンバーで行いまし

た。同好会の合併や理事(東野さんとお孫さん)会の在り方等について、激論の輪が広がり、店側から声がかすぎると再三お叱りを受ける程、熱い意見交換が交わされ、午後6時過ぎにお開きになりました。しかし、議論したりなかった何人かは、新杉田で続けました。





## 五所川原プロバス倶楽部交流会（移動例会）と立佞武多祭り見学会

横濱プロバス倶楽部

### 五所川原は大雨で避難指示が？

当倶楽部のメンバー20人が8月6日から1泊2日の旅程で青森県五所川原を訪ねて、東京発午前9時08分の東北新幹線に乗車しました。ところが、車内で五所川原が大雨で避難指示が出され、一部幹線道路も通行止めも出ているとの現地情報が入り、相手の迷惑を考えて20人も押しかけていいものかどうか、もちろん佞武多祭りは中止だろう、行ってもホテルに缶詰めかなど大変心配しました。私たちが予定通り午後12時29分に新青森駅に到着した頃は、五能線はストップしているものの、少し雨が残っている程度で、大雨のこん跡は見当たりません。やはり、マイクロバスで新青森駅から五所川原まで1時間ほどかけて行きましたが、中心市街は何ら変わった様子は見受けられませんでした。

途中で、立佞武多の館（最大23mの大型の立佞武多を含めて常時見学可能）に立ち寄り、館長の案内で巨大な3台のネプタの顔を真横に見られる高さと迫力にビックリ。ここで、本日祭りが開催されることを確認して、全員ひと安心しました。

### 大雨の影響

午後6時から、五所川原中央ロータリー及びプロバス主催の横濱プロバスとの交流会が我々が宿泊するホテルサンルートで行われました。大雨の影響で五所川原の出席者が、急きょ予定の26人から半数の13人になり、市長にご挨拶頂ける予定もキャンセルとなりました。しかし、おいしい料理と市長からワインの差し入れもあり、心からのおもてなしにメンバー全員感激しました。

### 交流会

五所川原中央ロータリークラブ藤田会長から開会の辞を、続いて五所川原プロバス倶楽部成田会長から歓迎の挨拶を頂きました。対して、横濱プロバスの中村会長が謝辞を述べるとともに、全

立佞武多の館で見学



藤田ロータリー会長



五所川原成田プロ会長



横濱中村プロ会長



青木実行委員長



国際ロータリー島村  
コーディネーター



島村氏の全日本プロバス理事就  
任受諾に森山幹事長が感謝

日本プロバス協議会総会の青木実行委員長から、11月の横浜大会紹介と参加を呼びかけました。次に、受け入れ側の窓口（横濱側は松下氏）として、計画を整えていただいた国際ロータリー島村地域コーディネーターから熱いエールが送られました。



歓迎夕食をとりながらメンバー同士の交流になり、倶楽部の活動状況・内容、活性化策等諸々の情報交換とともに、横濱側全員で横濱・浜っ子プロバスの歌（カラオケ同好会のブルーライト・ヨコハマ替え歌）を披露すると、五所川原の皆さんも全員で地方所縁の美しい歌で応えて頂き、くしくも歌の交換もできるなど大変和やかな交流会となりました。

### 立佞武多祭り

午後7時からは立佞武多見物のため、会場を最寄の棧敷（ビル3階屋上）に移しました。電柱地中化道路両側の歩道は見物客で溢れており、我々メンバーは、特等席で9時までの2時間「ヤッテマレ」の掛け声が天に届けと練り歩く、様々な立佞武多を觀賞出来ました。

なお、今度の素晴らしい夕食と棧敷見学は、五所川原の中央ロータリークラブ及びプロバス倶楽部にご提供いただきました。

### 二次会

二次会は歩いて5分程度のナイトラウンジでしたが、カラオケ同好会メンバーが日頃の成果を披露する等、楽しく懇親を深めることが出来ました。特に關さんと保谷さんが座を盛り上げました。（午後10終了）

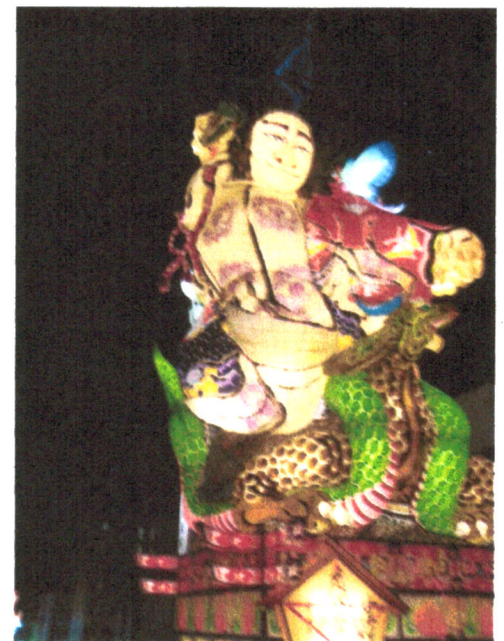
ヤッテマレ！ ヤッテマレ！  
練り歩く 立 佞 武 多



横濱側の合唱



五所川原側の合唱



（高さ2.3mの「陰陽 梵珠北斗星」）



## 二日目の行程

### 津軽鉄道に乗車

朝、マイクロバスの迎いでホテルから五所川原駅へ。バスには、五所川原側の配慮で運転手やガイド役を含めて4人同乗。雨が落ちてきそうな曇り空、五所川原駅から9時36分発の津軽鉄道で金木駅まで20分、田んぼの青々とした苗に囲まれた中をゆっくり走る2両編成の電車、その変哲もない車窓の景色を、若い女性のアテンダントがユーモア交えて退屈させないよう説明していました。感心したのは旅行客を増やそうと頑張る姿でした。また、農林高校生が車内販売していた自家製の焼き鳥の皮もどき

(こんにやくとおから

で作製)もなかなか美味かった。

金木駅からは五所川原駅から先行して待機してもらっていたマイクロバスで移動。

### 斜陽館と津軽三味線会館

太宰治の生家・斜陽館は木造2階建ての大邸宅で、今新築するとすれば7~8億円するという。太い柱、厚い1枚板等建築資材は現代で集められるのか?と思うほど贅を尽くした造りだった。

また、高い赤レンガの塀に囲まれており、その理由が小作人の強訴に備えるためだったそうで、考えさせられた。津軽三味線会館での30分間の演奏は、独特の情感があり初めて生を体験できてよかった。

### 昼食はシジミ尽くしで

昼食は十三湖畔のシジミ専門店「しじみ亭奈良屋」で摂りましたが、汽水湖で採れるシジミは大きく、混ぜご飯、スープ、煮物、しじみラーメン等シジミ尽くしを堪能しました。

### 三内丸山遺跡

新青森駅へ向かう途中、「三内丸山遺跡」を訪ね、縄文人が4,500年生活した広い遺跡の址と縄文時代の数々の遺物を目の当たりにして、祖先を思いやる一時を過ごしました。

津軽鉄道



ガイド役の小枝さん(左)、と アテンダント



斜陽館 入口



津軽三味線



十三湖畔

新青森駅までマイクロバスで送ってもらい、同乗した五所川原の方4人と別れましたが、この方々の車中ガイドや案内などの気使いで、2日目も大変楽しく過ごせました。

予定通り午後5時44分発の新幹線で東京駅に9時04分着、それぞれ元気で家路につきました。五所川原の皆さんのお蔭で素晴らしい旅行(交流会・見学会)ができました。あらためて、深く感謝します。皆さん、11月の全日本プロバス大会総会・横浜大会をよろしく。